

着衣泳で命を守る

教育長 津野 庄一郎



「着衣泳」とは、衣服を着たまま水に浮いたり呼吸したりする方法を学び、水難事故から自分の命を守るための大切な技術です。



7月21日午前、関川小学校（伊藤彰校長）では、1年生から6年生までの全児童を対象に、村上市消防本部の野口岳夫様を講師にお迎えし、着衣泳の授業が下関地区プールで行われました。



子どもたちは、体育着姿で参加し、講師や先生方の指導・サポートを受けながら、楽しみつつも真剣に学習に取り組みました。まず、水に入る際の基本として、急に飛び込むのではなく、プールの縁につかまりながら、深さを確かめる

ように慎重に入る方法を体験しました。次に、誤って水に落ちてしまった場合には、まず落ち着いて肺に空気をしっかり吸い込むこと。胸を張って仰向けになり、力を抜いて水面で呼吸を確保すること、といった命を守る姿勢を学びました。さらに、身近にあるペットボトルなどを抱えることで、浮き輪の代わりとして身体を浮かせることも体験しました。

私が子どもの頃は、近所の仲間を誘って川で泳いだり潜ったり、魚をヤスで突いたり、タモですくったりする遊びを通じて、水の怖さや危険から身を守る術を自然と身に付けていました。しかし、近年は少子化や猛暑の影響もあり、そうした経験を積む機会が少なくなっています。だからこそ、水難事故から自らの命を守るための具体的な方法を学ぶ今回の取り組みは、今の子どもたちにとって非常に重要です。子どもの命を守る機会を設けた学校側と指導された講師の先生に深く感謝申し上げます。

<【写真】小学校3・4年生の着衣泳の授業風景>